

平成29年度 第2回大竹市子ども・子育て会議 会議録

会議録1

日付	平成29年12月20日(水)
時間	午後6時30分～午後8時
場所	大竹市役所 1階休憩室
出席者 【委員】	委員9名 会長：日域 究 (学校法人 大竹学園 大竹中央幼稚園) 副会長：寺岡 公章 (大竹市青少年育成市民会議) 委員：小西 啓二 (大竹市小学校校長会) 村田さつき (知恩保育園保護者会) 清水 舞圭 (立戸保育所保護者会) 林 未央 (大竹市PTA連合会) 田代 智子 (NPO法人 子育てハッピーネットほのぼのん) 角井 賢治 (社会福祉法人 大竹市社会福祉協議会) 築地 富美 (大竹市民生委員児童委員協議会)
【事務局】	事務局 金子しのぶ (健康福祉部福祉課長) 野島 等 (健康福祉部保健医療課長) 小田 明博 (教育委員会事務局生涯学習課長) 坂井 渉 (教育委員会事務局生涯学習課 課長補佐兼青少年育成係長) 井上 剛 (健康福祉部福祉課 課長補佐兼児童係長) 横山 裕美 (健康福祉部福祉課 主任) 武田 宜裕 (健康福祉部福祉課 主任) 白木 美妃 (健康福祉部福祉課 主任主事)
欠席者	委員6名 七木田 敦 (広島大学大学院) 宮下 文恵 (大竹中央幼稚園保護者会) 大知 恭子 (大竹市保育連盟) 日野 浩爾 (一般社団法人 大竹青年会議所) 中村 典子 (連合広島大竹・廿日市地域協議会) 福中 久美子 (大竹市民生委員児童委員協議会)
議事	(1) 大竹市子ども・子育て支援事業計画の中間見直しについて (2) その他
配布資料	次第 平成29年度第2回大竹市子ども・子育て会議次第 資料1 子ども・子育て支援事業計画等に関する中間見直しのための考え方について 資料2 教育・保育量の計画数値の見直しについて 放課後児童健全育成事業の計画数値の見直しについて 資料3-1 児童人口の推移 資料3-2 入所希望児童数の推移見込み 資料3-3 施設別・年齢別児童数 資料3-4 待機児童の状況 資料3-5 保育所等利用待機児童数調査要領 資料4 放課後児童クラブ(地域子ども・子育て支援事業)事業量の見込みと確保方策

<p>【開会】 事務局</p>	<p>皆さん、こんばんは。</p>
<p>会長</p>	<p>本日は、公私ともお忙しい中、ご出席いただき誠にありがとうございます。</p> <p>ただいまより、平成 29 年度第 2 回大竹市子ども・子育て会議を開催いたします。</p> <p>会議の開催に先立ちまして、前回の会議から時間的余裕のない中での日程調整ということもあり、本日の出席人数は 9 名となっておりますことをご報告いたします。なお、本日の会議につきましては、過半数の出席がありますので、大竹市附属機関設置に関する条例第 8 条第 3 項の規定により会議が成立していることを、併せてご報告いたします。</p> <p>ではここからの進行は、日域会長にお任せいたします。よろしくお願ひします。</p>
<p>事務局</p>	<p>寒い中、皆さん、ご出席ありがとうございます。それでは今から会議を進めていきたいと思ひます。本日は大竹市子ども・子育て支援事業計画の中間見直しをするということでお集まりいただひています。これまでの計画の進捗状況や今後の見込みを踏まえながら、見直しが必要と考えられる項目についてどういった修正を行うべきかを審議いたしますので、皆さんよろしくお願ひいたします。</p>
<p>事務局</p>	<p><事務局より本日の配布資料及び議題について説明></p>
<p>【議事(1)】 会長</p>	<p>それでは議事に入ります。議事(1)「大竹市子ども・子育て支援事業計画の中間見直しについて」を議題といたします。</p> <p>本議事の進め方ですが、平成 27 年度から 31 年度までの計 5 か年の計画期間とする大竹市子ども・子育て支援事業計画につきまして、前回の会議でもご案内がありましたように、本年度が中間見直しの年に当たります。計画見直し案につきましては、事前に事務局から各委員に送付されておりますので、皆さん内容は目を通されていると思ひます。本日は事務局が作成した見直し案、具体的には「数値目標の修正」につきまして、皆さんから色々なご意見をいただきながらこれでよいか、修正すべき点はないかといったところを全員で確認しながら、会議としての考え方を整理したうえで、可能であれば本日の会議の最後に皆さんのご承認をいただきたいと思ひます。</p> <p>なお、前回の会議で問題となりましたが、この会議でまとまった市の計画の見直し内容が、見直し後の県の計画に反映可能なのかということにつきましては、事務局が県と調整して、来年 1 月末までで間に合うというこ</p>

事務局	<p>とです。ここで皆さんにご報告いたします。それでは、事務局から大竹市子ども・子育て支援事業計画中間見直し案について説明をお願いします。</p> <p>＜事務局より議事(1)「大竹市子ども・子育て支援事業計画の中間見直し」について資料説明＞</p>
会長 委員	<p>今の事務局の説明に、質問、意見等ありましたら発言をお願いします。</p> <p>資料2の教育・保育量の見直し後の数値の、現計画値からの増減数について教えてください。例えば3号認定者の1～2歳児は70人増加、2号認定者についても47人増加という数字を出しています。0歳から5歳までの子どもの数が減少する中で、保護者の就業率が上がっているからなのか、資料3-4の待機児童の状況を見ると、12人の待機児童が出ています。見直しによってこの数字を出した経緯をもう一度教えてください。</p> <p>また、放課後児童クラブの大竹小学校の定員が135人となっていますが、見込値は平成30年度は147人、平成31年度は148人となっています。定員を大きく上回っているのは法的には大丈夫ですか。</p>
事務局	<p>1点目のご質問の、0歳から5歳までの人口が減っているのにもかかわらず、現計画と見直し後で大幅に見込値と確保方策の数値が増加したことについてですが、現計画の数値は、人口減少傾向が大きく反映されたものとなっています。</p> <p>(大竹市子ども・子育て支援事業計画の)冊子36ページの2号認定者のところで説明しますと、見込値については、平成27年度から平成28年度にかけては、資料3-1で説明した理由により増加していますが、それ以降は人口減少ペースが大きく反映された見込値となっており、平成28年度から平成29年度にかけては37人減少と見込んでいます。一方、資料3-2「入所希望児童数の推移の見込み」を見ていただきますと、3～5歳児の入所児童数は、平成28年度の382人から平成29年度は377人と、実績ベースではわずか5人の減少となっています。</p> <p>現状、入所児童数は増加傾向にあり、待機児童も出ていることから、見直しに当たっては、実績に基づく増減数と人口減少傾向をかみ合わせながら、見込値を算出していますので、大幅な人口減少が反映されている計画値と実態に大きな乖離が生まれているというのがポイントになります。</p> <p>2点目の放課後児童クラブの質問についてですが、確かに定員を上回っている数字になっていますが、条例では、市長が認めた場合は定員を超過して若干名を入会させることができるとしてあります。実態については、申し込みをされても、実際に利用する方は8割程度です。子どもによっては毎日来る子、週に何度かしか来ない子など違いがあり、平均的には8割くらいが実際の利用者数としての数字ですので、定員を上回ってはいますが、受け入れは可能であると考えております。</p>

会長	最初の質問の、3号認定についての数値の出し方ですが、ソフト等があるって人口など数値を入れたら、その数値をはじき出すという考え方でいいのですか。
事務局	もともと計画値の算定にあたっては、国の方から試算するためのひな形が示され、そこに当てはめるやり方を採ったのですが、現状と合わない数字が出てくるため、大竹市の人口の状況等を加味していき、現状に合った数字になるようまとめていった経緯があります。中間年ではさらに現状とは異なる数字になっているというのが実際のところですよ。
会長	大竹市くらいのコンパクトな町であれば、人間の感覚で実態に即した予測がある意味では可能ではないですか。
事務局 委員	そういう可能性もあると思います。 資料4について、平成28年度の放課後児童クラブの高学年が、利用申し込みが多すぎて18人の方が辞退されているのですが、その翌年は1人しか申し込みに来なかったのは、申し込んでもダメだと思っていたのでしょうか。小方学園は新しい団地もできて需要があると思うのですが、何か理由など分析していますか。
事務局	分析は行っていませんが、実際に申し込みを受けた段階で高学年については1人しか申し込みに来られませんでした。もしかしたら昨年入れなかったから今年も無理ではないかと思われて、申し込みに来なかったのではないかと考えております。 また、9歳～11歳の人口が平成28年4月1日現在643人であったのが、平成29年4月1日現在では596人にまで減少していますので、児童人口自体の減少の影響もあるかもしれません。
会長	小方小学校の放課後児童クラブは、高学年は受け入れていないと言われた年がありましたが、それが平成28年ですか。
事務局 副会長	平成28年です。 資料3-2と資料4を見て、それぞれの担当課の子どもの年齢で調査しているのは分かるのですが、市全体の子育て支援事業ということで、0歳児から小学生までの連続したものの研究はどの程度やっておられるのでしょうか。年齢を繋げることで、子育て世帯、就労世帯の方々が抱えている背景が分かってくる、単に数字を追う計画ではなく、実態が浮かんでくるのではないかという印象を持ちます。例えば児童クラブは大竹・小方・玖波の学区ごとにあり、その学区内には保育所もあるわけですから、0歳児から繋げて考えていくことで背景が見えてくるのではないかと思うのですが、その辺りの検討はいかがでしょうか。
事務局	今回の中間見直しに関しましては、国から示された見直しのための手引きに沿って事務局で案を作り、見直しを行いました。今副会長が言われたような視点での見直しも当然必要だと思います。 平成32年度からの次期子ども・子育て支援事業計画の策定に向け、来年

<p>会長</p>	<p>度は保護者等へのニーズ調査を実施する予定ですが、0歳児から就学期まで連続した視点での研究についても検討していきたいと思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>資料4の放課後児童クラブの1～3年生の見込値・確保方策の数値が一致していますが、具体的にこの数値は何を示しているのですか。</p> <p>見込値については、その人数が来るであろうと見込まれる値、確保方策は目標値になりますので、今回見直しを行った確保方策の人数は「受け入れ可能な人数」ということになります。見込みの人数分は受け入れができません、ということで同じ人数としています。</p> <p>ただし、これまでの数値については、見込値に比べて受け入れが不足している場合は、不足を解消するための方策も考えながら計画に入れましょうという考え方が計画当時にはありましたので、見込みの人数に対して受け入れが不足していても、見込値と確保方策の数字を一致させているところがあります。</p>
<p>会長</p>	<p>4～6年生は、平成27年度では見込値が83人となっているのに対し、確保方策は20人になっています。これだけ見ると「足らずをどうするのか」と思ってしまうのですが、その点はいかがですか。</p>
<p>事務局</p>	<p>そういう状況に対して、計画的に取り組んでいきなさいということだったのですが、計画数値の計上というのは実際難しい面があります。</p> <p>当初国の方では、システム等を使ってもっとスムーズに出せると考えていたようですが、結局うまくいかず、広島県とも話をし、1年ごとに実績を見ながら数値を改めていこうというのが当時の考え方でした。</p>
<p>会長 委員</p>	<p>事務局案の数値については、これでよろしいでしょうか。</p> <p>これらの計画数値は、より現実に近づいてきていると読み取っていいのでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>保育の量に関しましては、今年度から国において、待機児童の定義を保護者の実情に応じた形に見直しが行われ、大竹市でも、中途入所も受け入れていく中で待機児童が生じる状況が発生しています。現実的に保護者のニーズに応えられていない状況を数字にして示すことで、我々だけでなく保護者の方々、保育所に入れなくて困っているの方々、保育関係に携わる方々や市民の方々にこの状況を共有していただき、大竹市全体でどうやって保育を確保していくのかを考えるきっかけにしていきたいと担当課では考えています。</p>
<p>会長</p>	<p>他にご意見がないようですので、議事(1)については、事務局案を承認することとして、終わりにしたいと思います。</p>
<p>【議事(2)】 会長</p>	<p>次に議事(2)「その他」とありますが、何かありますか。</p> <p>なければ私の方から一つだけ。待機児童の定義は難しいと思うのですが、例えば、利用者の希望時間と受け入れ側の時間がそもそも合わなければ、</p>

事務局	<p>いつまで経っても待機児童になります。何か基準のようなものはあるのでしょうか。</p> <p>全ての保育所が同じ開所時間であればよいのですが、保育所によって開所時間が異なる場合、ある保育所なら迎えに間に合うが、そこが定員いっぱいでは入れず、他の保育所では迎えに間に合わないから入所しない、というような場合は、その児童は待機児童にカウントされます。</p> <p>他にも、通園方法が自転車しかない人が、自転車で行くには遠すぎる保育所へ行かなければならない等、明らかに困難な場合は、保護者の個人的な都合とは言えないので、そのような場合は待機児童にカウントする、という形に国の定義が変わったところです。</p>
会長 事務局	<p>他にはありませんか。</p> <p>この場でご意見、ご質問等がない場合でも、事前にお送りした質問用紙に記入していただき、事務局に提出していただいて構いません。今回審議した内容に限らず、この子ども・子育て会議は、子育て支援全般に関する様々な意見を伺わせていただく場ですので、ぜひ気付き等あればお寄せください。よろしくをお願いします。</p>
会長 事務局	<p>ではこれで全ての議事を終わります。最後に事務局からお願いします。</p> <p>本日はありがとうございました。本会議でご承認いただいたことで、大竹市における数値目標の修正を広島県に報告させていただきたいと思えます。</p> <p>また、当市においても、待機児童の解消に向けて様々な問題を抱えており、どうしたら皆さんの要望に応えることができるか、より良い保育行政を行っていきけるかを考えつつ、前に進もうと思っておりますので、今後とも活発なご意見を出していただくことをお願いして、終わりにしたいと思います。長時間にわたり、本日はありがとうございました。</p>